

お盆(大・小)に蒔絵をする

平成19年6月8日・15日・22日・29日 13:00~17:00
場所/高岡市デザイン・工芸センター2F工房

今回は、蒔絵の技法を用いて、大小2種類のお盆を飾り付けるコースを紹介します。

蒔絵とは、漆器の表面に漆で絵を描き、それが乾かないうちに金や銀などの粉を定着させる加飾技法です。

穂先の長さを調節できる蒔絵筆を使って描きますが、「漆に油が混ざると乾かなくなる」「漆は水分と反応するので、湿度が多い方が乾きやすい」など、漆の特性も学びながら、皆さん一生懸命に製作に取り組んでいました。

1



下絵を描いた薄紙をなぞって、お盆に転写する。これを、「置目」という。

2



爪盤に漆を取り、蒔絵筆で描いていく。漆の量を調節し、穂先を揃えて描くのがポイント。

3



粉筒に金粉を入れて蒔く。蒔いた後、毛筆で外側から模様に向かって金粉を寄せる。

6

完成



乾燥させて完成。受講生の皆さんの作品。

5



蒔絵筆で色の部分の絵を描く。

4



銀色にしたい模様は、銀粉を蒔く。金箔を置く方法もある。このあと、10~15分乾燥させる。

講師

宮下 勉



昭和16年生まれ。山崎立山氏、大場松魚氏などに師事。高岡市伝統工芸産業技術者養成スクール修了。富山県デザイン展大賞、高岡市美術展市長賞、日本工芸会最高賞など受賞。日本工芸会正会員。高岡市伝統工芸産業技術保持者。

Design Seminar 33

第33回デザインセミナー

開催/平成19年11月30日(金)

ソーシャルデザイン

環境を軸とした地域社会の再構築

—環境事業による地域再生の可能性—



まつだ はじめ

松田 創

ソーシャルデザイナー

昭和47年生まれ。平成2年よりデザイナーとして活動開始。10年、日本文化の精神性をテーマにした創作活動を経て、17年(株)イナ・デザインコンサルティングシステムズを設立。持続可能な事業モデルの開発、環境を軸としたプロジェクトの再構築から、環境負荷削減、環境対応型商品の開発などを行う。

「産地」としてあり方を「環境」から、再構築する。

今、サステナビリティ(持続可能性)という概念が世界の大潮流となつています。今の地球環境を考えると、地球は持続可能か? 答えはノー。今、私たちは危機的な状況にあります。特に、人類がどれだけ努力しても温暖化を止められない地点「ポイント・オブ・ノー・リターン」(問題が人間の力では止められなくなる地点の意味)。温暖化は人類、あらゆる生命に危機的な状況をもたらします。現状を深刻に受けとめ、一人ひとりが自らの意志で能動的に行動しなければなりません。

現状、資源のほとんどを世界に頼らざるを得ない日本においては、製造、生産、流通業などの事業活動、消費者の消費行動は、世界のさまざまな環境(時には深刻な環境問題)とつながっています。つまり、私たちの「選択」と「行動」が世界の環境を左右するということです。言い換えれば、日本が変われば、世界が変わります。

「産地」としての新しい価値を想像してみてください。高岡は銅器のまち、「伝統文化」と「技」が生きたものづくりのまち。資源ではなく「人」です。地球的視野で、地域を考えることのできる新しい時代のエリートを育ててください。

危機的な状況は、新しい変化を生むチャンスとも捉えることができます。大量生産・大量消費の時代から、モノを大事に、生命が調和し全てが循環する時代へ。環境変化を取りまく世界状況や、モノづくりや消費のあり方そのものが変化する時に、環境をうまく取り入れることが、新しいビジネスのスタイルを生みだし、「産地」の新しいあり方を提案できるのではないのでしょうか。

そして、ビジネスだけではなく、私たちの生活、社会のあり方そのものが、環境を軸に、今、全ての人間に問われているのです。